

## 都 市 経 済 委 員 会 会 議 録

### 招 集

令和3年10月15日（金）午後1時 議場

### 出席委員（9名）

（委員長）国 頭 靖 （副委員長）田 村 謙 介

遠 藤 通 中 田 利 幸 又 野 史 朗 三 嶋 秀 文

矢 倉 強 安 田 篤 渡 辺 穰 爾

### 欠席委員（0名）

### 説明のため出席した者

【下水道部】下関部長

[整備課] 山中課長 清水管路維持担当課長補佐 安達管路整備担当係長

[施設課] 山崎課長 見山施設維持担当課長補佐

松並課長補佐兼施設工事担当課長補佐

### 出席した事務局職員

松下局長 土井次長 森井議事調査担当局長補佐

### 傍 聴 者

岩崎議員

報道関係者0人 一般0人

### 報告案件

- ・皆生処理場送泥管の供用開始について [下水道部]

~~~~~

### 午後1時00分 開会

○国頭委員長 ただいまから、都市経済委員会を開会いたします。

本日は手元に配付しております資料のとおり行いますので、よろしく願いいたします。

下水道部から1件の報告がございます。

皆生処理場送泥管の供用開始について、当局からの報告をお願いいたします。

見山施設維持担当課長補佐。

○見山施設課施設維持担当課長補佐 下水道部施設課施設維持担当の見山です。座って報告させていただきます。

皆生処理場送泥管の供用開始について報告でございます。

これは令和2年1月1日に発災した皆生処理場送泥管の事故に伴い、運転停止をしていた送泥管の施設について復旧工事の進捗状況を踏まえ、令和3年10月1日から暫定的に供用を開始したので報告いたします。ここで暫定的にとありますけれども、送泥管は皆生処理場から内浜処理場まで2本の管でつながっておりまして、そのうち1本が開通したことで、その供用を開始するものです。

1、皆生処理場送泥管事故の概要でございますけれども、場所は米子市米原二丁目1549-13付近、裏の位置図を御覧ください。ホープタウンとJR境線の踏切の場所、ここ

に事故発生と書いてありますけども、この場所から汚泥が漏れ出たものです。元に戻っていただいて、原因といたしましては、送泥管の腐食により管が破れ、汚泥が漏出したと考えております。周辺への影響はありませんでした。

復旧までの経緯でございますけども、まず令和2年1月1日から5日まで、送泥管事故の発生に伴う緊急対応を行っております。これは、あふれ出た汚泥をそれ以上広がらないように処置をしたりの対応を行いました。併せて、1月4日から皆生処理場から内浜処理場へ大型吸引車を用いまして、汚泥の運搬を開始しております。1月22日、都市経済委員会にて本送泥管事故の報告を行わせていただきました。3月6日から送泥管の復旧工事に着手いたしました。そして、令和3年8月31日に送泥管が1本開通いたしました。9月17日に送泥ポンプを用いて通水試験を行い、27日から送泥を行い、送泥管に異常がないことを確認しております。10月1日に送泥管の暫定供用を開始したものです。最終的に残りの1本につきましては、令和4年3月に工事の完成予定としております。

工事その他の対応について、3ですけども、まためくってもらって裏を見てもらうと、改築工事した部分なんですけども、この赤の線になります。ホープタウンの前の自転車道をほうから、ホリディススポーツクラブのところまで管を埋めてまして、そこから錦町の三丁目、こめ蔵さんのところまで新しい管を埋設しています。約750メートル程度の長さになりまして、工事費としては約3億3,000万程度のお金がかかっています。

次、元に戻っていただきまして、大型吸引車を用いた汚泥の搬出なんですけども、令和2年1月から令和3年9月の中旬まで実施しまして、費用としましては約1億6,000万円程度のお金がかかりました。

次、4、今後についてですけども、先ほど申しましたとおり、令和4年3月までに残りの1本の敷設を完了させます。また、今回復旧した区間を含め、今使っている送泥管は供用開始から40年間が経過しております。今後も老朽化に伴って、ほかの場所からの汚泥が漏れたりする事故が懸念されますので、処理場の再構築事業と調整しながら、改築を順次行っていく予定としております。以上でございます。

**○国頭委員長** 当局からの報告が終わりました。

委員の皆様のご質疑、御意見を求めたいと思います。

遠藤委員。

**○遠藤委員** 4のところ、今後についてというところでお聞かせをいただきたいんですけども、最後の1本が令和4年3月に工事完了というのは、場所はどこですか、これ。

**○国頭委員長** 見山担当課長補佐。

**○見山施設課施設維持担当課長補佐** 同じ場所になります。同じ赤い線の場所になります。

**○国頭委員長** 山中整備課長。

**○山中整備課長** 位置でございますけども、この赤で引っ張らせていただいた線に管が2本入っております。基本的には2本、今、工事施工中でございますけども、境線の部分で若干2条目にちょっと遅れが見えとりまして、そこについてはまだ1本しか入っておりません。それ以外の区間については、2条は既に入っております。

**○国頭委員長** 遠藤委員。

**○遠藤委員** つまり位置図で見ると、2本全体的には赤い線のところに入れとるけども、一部に1本が入っていないということで、その残る1本分が令和4年の3月にできるという

話だと思うんだよね。その場所というのはこのJR境線のところの付近ということ。

○国頭委員長 山中課長。

○山中整備課長 JR境線の部分でございます。

○国頭委員長 遠藤委員。

○遠藤委員 もう一つ聞いておきたいと思うけど、この裏面のところに工事が、工期を書いた4回の、事業工期が書いてありますね、これはこの赤線でいうと、どの区域に当たるんですか。例えば、令和2年3月6日から令和2年9月30日の2、100万というのはどこの区域、あるいはその次の分はどこの区域、その次はどこの区域、これだと分かりにくいんだけどもな。

○国頭委員長 山中課長。

○山中整備課長 申し訳ございません。この図面でいきますと、JRの委託部分につきましては、境線の軌道下の約132メートル、そして皆生処理場送泥管改築その1工事といいますが、ホープタウンのところからJRの委託をお願いしているところまでの区間、そして皆生処理場送泥管改築その2工事といいますが、JRに委託している部分からこめ蔵のところまでの区間でございます。

○国頭委員長 遠藤委員。

○遠藤委員 もう一つ聞くのは、全体的に老朽化をしているということで、処理場の再構築事業と調整を行いながら、改築を行っていく予定であると、後の送泥管というのは何メートル残っておるですか、老朽管として改修しなきゃいけない距離、長さというのは。

○国頭委員長 清水整備課管路維持担当課長補佐。

○清水整備課管路維持担当課長補佐 残りあと約8キロございます。

○国頭委員長 遠藤委員。

○遠藤委員 この8キロというのは地域でいうと、どういうところに当たるんですか。

○国頭委員長 清水整備課管路維持担当課長補佐。

○清水整備課管路維持担当課長補佐 すみません、管が入っている場所ということでよろしいでしょうか。

皆生処理場、皆生温泉にございますけども、それから内浜処理場、安倍でございます、そこを結びます、まず皆生処理場から出まして、皆生街道、皆生街道からわこの辺りを通過いたしまして、それから米川沿い、米川沿いをずっと行きます、今回の図面でお示ししている辺りに来ます。そこから、米子港のほうに向かいます、米子港の辺りから内浜産業道路を通りまして、安倍の処理場に至ります。以上です。

○国頭委員長 遠藤委員。

○遠藤委員 それが老朽管が8キロ残っている間だってことですか、区間だってことですか。

○国頭委員長 清水整備課管路維持担当課長補佐。

○清水整備課管路維持担当課長補佐 はい、おっしゃるとおりです。

○国頭委員長 遠藤委員。

○遠藤委員 もう一つは送泥管の敷設事業に関わる財政的な枠組みの問題を聞いておきたいと思うけども、これはこの間たしか下水道料金値上げのときの財政計画が組み込まれておったと思うけども、その中にはこういう工事の分は当然組み込まれた経費になってい

るんですか、投資経費に、老朽管対策の。入っていますか、財政計画に。

○国頭委員長 山崎施設課長。

○山崎施設課長 施設再構築の中にこの送泥管部分の更新も入ってるんですが、今現在その現計画を見直し作業中です。その見直し作業にこの送泥管を再構築させるために、必要な経費というのをよりもうちょっと精度の高い額をもって、反映した形で今年度内をめぐりに再度経営戦略というのを作っていく予定にしております。

○国頭委員長 遠藤委員。

○遠藤委員 再度確認しますが、前回出しておいた財政計画には含まれていないけれども、今回見直しして再度提示をするということですか。

○国頭委員長 山崎施設課長。

○山崎施設課長 言い方がちょっと、一応含まれています、既に、現計画にこの送泥管の再構築という事業費ベースの額は含まれているんですが、いま一度この事故を受けて、作りかえていく上で、具体的にどのような費用がかかってくるかという事業費を精査しておりますので、その精査した事業費を今見直し作業中の経営戦略に反映させて、今年度中に新しい経営戦略を策定する予定にしております。

○国頭委員長 よろしいですか。

田村委員。

○田村委員 ちょっと素人質問で申し訳ないんですが、この事故現場となったところの、いわゆる改修だけではなくて、この長い距離、相当迂回する形で埋設をされたんだというのは分かるんですけども、なぜこの距離をとられたのかな、要するにこの現場を含む、既設の線のほうが距離的にも短いし、工費的にも安かったんじゃないかなと思うんですが、この遠回りをあえて迂回させたという理由をお聞かせいただきたいと思います。

○国頭委員長 清水担当課長補佐。

○清水整備課管路維持担当課長補佐 おっしゃるとおりで、図面だけを見ますと、事故したところだけを入れ替えればいいじゃないかというふうに見えるのは確かでございます。当初、私どももそういう施工ができないかというのを検討いたしました。そうしましたら、ここ既にいろんな水道管ですとか、ガス管ですとか、いろんなものが入っておりまして、それらを動かしたり、よけたりするにつきましては、工事が難しいこと、費用が余分にかかること、いろいろ総合的に考えますと、支障が少ない、図面で赤でお示ししている今回施工したところに回したほうが総合的に見て有利であるという判断に至りましたので、こういう施工をいたしております。

○国頭委員長 田村委員。

○田村委員 分かりました。であれば、その今おっしゃった説明は今回の説明の中に入れるべきだったんじゃないでしょうかと思います。最初からやはり何でだろうというふうに思われるよりは、そういうふう考えたんだけど、こういう支障が想定されてということでの費用面等を考えて、新たな迂回路を選択しましたというふうにおっしゃったほうが僕は親切だと思いますし、分かりやすいんじゃないかと思います。

すみません、もう一つついでにお聞かせいただくんですが、事故現場を含む、いわゆる廃止となる管、送泥管についてはもう埋設の状態で放置ということなんですか。

○国頭委員長 清水担当課長補佐。

○清水整備課管路維持担当課長補佐 これにつきましては、道路管理者と相談いたしまして、使わなくなった管の中にモルタルを充填する方針で今検討を進めております。

○国頭委員長 ほかにありませんか。

〔「なし」と声あり〕

○国頭委員長 ないようですので、以上で全ての報告案件が終わりました。  
都市経済委員会を閉会いたします。

**午後 1 時 1 5 分 閉会**

米子市議会委員会条例第 2 9 条第 1 項の規定により署名する。

都市経済委員長 国 頭 靖